第６学年道徳指導案

平成 17 年 10 月 28 日（金）２校時
６年１組（男 16 名、女 16 名　計 32 名）
指導者　　真壁　信義

１　主題名　学校を大切に思う気持ち　（４－(6)　愛校心）
２　資料名　父のアルバム　　（出典　光村図書）
３　主題設定の理由
（１）価値について
第５学年及び第６学年の内容項目４－(6)は、「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風を作る。」となっている。この内容項目は、学校や級友の集団との関わりに関するもので、先生や学校の人々を敬愛し、学校を愛する心を持った児童を育てることをねらっており、第１学年及び第２学年の４－(3)「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。」と第３学年及び第４学年の４－(4)「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。」を受けたものである。そして、中学校の内容項目４－(7)「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。」に発展していく。
学校を大切に思う気持ちは一人一人の心の中に友達や先生との関わりを通して作られていく。学校を大切に思うとは、今自分がこの学校の一員であるという強い所属観を持つと同時にみんなで協力して積極的に学校をよりよくしたいという思いを持つことである。またそれがよい校風を作るための土台となる。そのためには、学校における諸活動がそれに関わる個々の子どもたちにとってどれも学校を大切に思うことにつながるのだということに気付かせ目を向けさせる必要がある。そしてその営みが続いてきたことには先輩のひたむきな努力があってのことであるという点にも気付かせたい。そして、その校風や先輩の築いてきた伝統への敬愛の念を持たせていくことが大切である。
最高学年として学校を動かす立場になっている子どもたちは、３月の卒業に向けて小学校生活の仕上げの時期にきている。この時期において学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育て、立派な校風を作るために積極的に取り組もうとする気持ちを高めていくことが大切である。
（２）児童について
本学級の児童は、最高学年となり委員会などの児童会活動や運動会など学校全体を考えた活動が多くなってきている。また、各種体育的な対外行事などを通して青山小学校の代表としての意識も高まってきている。こうした反面、言われたことや決められたことはやるが、自分の責任の範囲以外など決められていないことに自分たちで目的を持ち自らが動くことは苦手な児童が多い。青山小学校を好きという子は約 60 %でやや好きという子を含めると４分３ほどの子が好印象を持っている。しかし、その理由は「友達が多い」「明るく楽しい」「あいさつが多い」「優しい人がいる」とイメージ的なもので自分あるいは学級の範囲でしか考えていない児童も多い。これから半年後の卒業に向けての活動にいろいろと取り組んでいく今、母校を大切に思う心に気づかせ、自分たちの学校なのだという意識をもたせたい。そして、学校をよりよくしようとする心を育て、さらによい校風を作るために積極的に取り組もうとする気持ちを育てていきたいと考える。
（３）資料について
本資料は主人公の美保が、父の学校への思い出話を聞くことで、花壇の手入れを嫌々していた自分たちの姿を振り返り、「自分たちの学校のために」という心に気付くという話である。暑い中の草取り作業への不満など児童が自分の体験から美保の心情に共感しやすいと思われる。また美保と同じように父親の体験談は子どもたちにとって印象的で、児童は母校に対する父の姿と自分たちの姿を比較していくと考えている。そして美保の思いに自分たちを重ねて「私たちの学校だ」という美保の心情に気付き、よりよい学校を作っていこうとする気持ちを育てることができる資料である。
（４）授業の構想について
本授業は、本校研究の視点「地域の人材を生かす」を柱として構成されたものである。この授業を通して児童の青山小学校に対する意識を深めていくために、導入で学校生活の様子の写真を提示し、楽しかった場面について話し合うことで学習への意欲づけを行う。そして、自分たちの母校である青山小学校のために自分ができることやしたいことを考え、その心情にふれることで学校を大切に思う気持ちを深めていく。こうした児童の学校への意識の深まりをもとに、最後に、青山小学校の卒業生であり現在ＰＴＡの一人として活躍している平野さんをゲストティチャートして迎え、母校についての具体的な思い出や、卒業後そして今の母校への思いを語ってもらうことにより、さらによりよい学校を作っていこうという気持ちを強めたいと考える。

４，全教育活動における本時の位置づけ

＜教科・総合的な学習の時間＞

国語「学級討論会をしよう」　【６月】
　話し手の主張を、その理由を考えながら聞き、自分の考えと比べる。

図工「花のある風景」　【８月】
　校舎や校舎の周りの建物を入れて絵を描く。

学級会　「学級のまとまりを考える」　【９月】
　係活動や班活動を見直し、よりよい学級を目指すためにどうしたらよいか話し合い、実践していこうとする。

総合「私たちの青山」　【９月】
　自分たちの地域のよさや特色を調べ、自分たちが受け継ぎ広めていきたい活動を考え実践する。

国語「みんなで生きる町」　【10 月】
　話し合いを通してみんなの考えをよりよいものに練りあげる。

＜道徳の時間＞

愛校心

主題名　本当の友情　【６月】
　２－(3)友情・信頼・助け合い
資料名　いじめられて
ねらい　互いに認め合い、助け合うことのできる、真の友情を大切にしていこうとする気持ちを育てる。

主題名　ふるさとを愛する心　【10 月】
　４－(7)郷土愛
資料名　誕生、わたしたちの青山駅
ねらい　地域の歴史を作り上げた先人の功績に興味を持ち、地域に駅ができることに対する地域の人々の気持ちを考えることを通じて、地域を大切にしていこうという気持ちを育てる。

主題名　学校を大切に思う気持ち　【10 月】
　４－(6)愛校心
資料名　父のアルバム
ねらい　主人公が母校に対する思いを変化させていく様子を通して、よりよい学校をつくっていこうとする気持ちを育てる。

４－(6)　愛校心
ねらい　先生や学校の人々への敬愛あを深め、みんなで協力し合いより良い校風をつくる。

＜特別活動・日常生活＞

委員会活動　【年間】
　よりよい学校生活になるよう自分の役割に責任を持って活動する。

清掃活動　【年間】
　校舎を大切にし、快適な生活ができるよう活動に取り組む。

運動会　【５月】
　母校の伝統を受け継ぎ組群の勝利を目指し応援や競技に取り組むとともに、責任を持って係活動をする。

陸上記録会・水泳記録会・球技大会　【７月、９月】
　学校の代表としての誇りを持ち、全力で戦い応援する。

始業式・終業式・卒業式　【各学期】
　儀式に参加することを通して、母校に対する所属観と母校を大切にしようとする心に気づく。

学習発表会　【11 月】
　学年全員でステージ発表に取り組み、母校での思い出を作る。

進級・卒業を祝う会　【２月】
　発表や態度で在校生や母校に対して感謝の気持ちを伝える。

友遊タイム　【年間】
　１年生との交流により、後輩に対して優しさや思いやりの心を持つ。

＜子どもの意識＞

・この学級やこの学校で担任の先生や同級の友達と学ぶことになった意義や縁を大切にしていこう。

・最高学年として、よりよい青山小学校を作っていくぞ。

・自分たちの住む青山地区には、こんなよさがあるんだ。
・地域の人々は、よりよくしようと様々な努力をしてきたのだから、自分たちも地域のための活動に取り組んでいこう。
・地域の人に喜んでもらえるのは嬉しいなあ。

・青山小学校の代表として全力で競技しよう。青山小学校の選手のために、全力で応援しよう。

・自分たちの母校青山小学校には、こんな良いところがあるぞ。
・青山小学校の一員として自覚を持って生活し行動していこう。

・父母や先生、後輩達に自分たちの最後の発表を残そう。

・後輩達にも青山小学校の伝統を受け継いでいってもらいたい。

5　本時の授業

（1）ねらい　　主人公が母校に対する思いを変化させていく様子を通して、よりよい学校をつくっていこうとする気持ちを育てる。

（2）展開

段落	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気づく 7分	1　学校生活の楽しい場面について話し合う。 ○どんなときが楽しかったでしょう。 2　資料の感想を発表し学習課題を設定する。 「私たちの学校なんだ。」と言った美保は、どんな気持ちだったろう。	・運動会や修学旅行が楽しかった。 ・みんなと一緒で楽しい。 ・沈む間近まで学校をきれいにしていたなんてすごい。	・学校行事など活動の様子の写真を提示し、資料への導入と学習への意欲付けを図る。 ・主人公の言動に着目させて感想をとり、学習課題を設定する。
深める 24分	3　「美保」の気持ちを中心に考え、話し合う。 ○花壇の手入れについて、美保はどんな気持ちで母さんに話しているのでしょう。 ○この湖の底に父の学校がしずんでいることを知って、美保はどんな気持ちになったでしょう。 ○美保は、最後まで学校をきれいにしようとしていた話を聞いてどのように思ったでしょう。 ◎「わたしたちの学校なんだ。」という言葉には、美保のどんな気持ちが込められているでしょう。	・面倒。やりたくない。 ・こんなに花壇がないといいのに。 ・花なんてそんなにいらない。 ・どうして自分たちがやらないといけないのか。 ・とってもすてきな景色の湖の底に父の学校がしずんでいるなんて。 ・まさか目の前の湖の底に沈んでいるとは、信じられない。 ・沈むからといって粗末にはできなかった父達に感動した。 ・最後まで花だんの手入れをしたなんて学校を大切にしてたんだ。 ・自分たちの学校だから最後まできれいにしたかったんだ。 ・花に囲まれたすてきな学校にしよう。 ・自分たちの学校を大切にしよう。 ・自分たちの学校だから自分たちがやろう。	・自己の体験を想起させながら、花壇の手入れに不満を持つ主人公の気持ちに共感させたい。 ・目の前の湖の底に父の学校が沈んでいることを知った美保の驚きを感じ取らせたい。 ・最後まで学校を大切にしようとしていた父の思いを美保の心を通して考えさせたい。 ・美保の気持ちの変容に気づかせ、主人公の学校への思いを考えさせ本時の価値に迫りたい。
見つめる 6分	4　資料で学んだことを受け、母校について考える。 ○青山小学校のためにどんなことをしたいですか。また、そう思うのはどうしてですか。	・1年生や下級生の手伝いなどをしたり仲良く遊んだりする。 ・もっとあいさつする学校になるよう進んで挨拶をする。 ・普段の掃除やワックス掃除を一生懸命やってきれいな学校にする。	・青山小学校のために自分が出来ることやしたいことを考え、その心情にふれることで、母校を大切に思う気持ちを深める。
まとめる 8分	5　まとめをする。 ○本校の卒業生であり、今保護者でもある平野さんのお話を聞きましょう。	・昔の卒業生も青山小学校を大切にしてたんだ。 ・良い学校にするぞ。	・卒業生の話を聞くことにで、よりよい学校にしようとする思いを強めたい。

板書計画

父のアルバム

美保

たくさんの花だん
手入れはたいへん
不平
争い

「ＰＴＡの人がやればいいのに。」

この湖の底に、父の通った小学校があるのだ
この学校が湖底に沈むその日まで
花だんの手入れをした
ゆかをみがいた

さし絵
花だんの
手入れをする
美保達

・面倒だ。　・やりたくない。
・こんなにないといいのに。
・どうして自分たちが。
・自分たちのこと、分かってくれない。

さし絵
アルバムを
開いて話す父

・最後まできれいにしようと
　していたなんて。
・本当に学校を大切に
・見習わなければ。
・わたしは学校のためになんて。

「そうだ。わたしたちの学校なんだ。」

・自分たちの努力ですてきな学校に。
・自分たちの学校なのだから自分たちが
　やらなければ。
・父たちと比べて自分たちははずかしい。

学校を大切に思う気持ち

さし絵
帰りの車の
中で考え込む
美保

7　資料分析

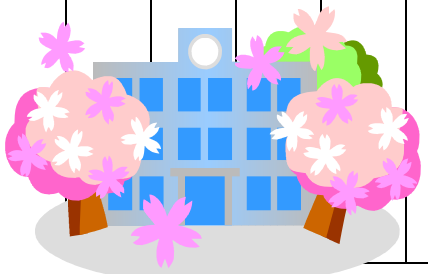
（1）　ねらい　主人公が母校に対する思いを変化させていく様子を通して、よりよい学校をつくっていこうとする気持ちを育てる。

（2）　資料名　父のアルバム　（出典　光村図書　）

主な場面	美保が学校の花壇の手入れ作業への不満を母親に話す場面。	家族旅行で訪れたダム瑚のそこに父の学校が沈んだことを知った場面。	閉校間近まで花壇の手入れや床みがきをしていた父の話を聞く場面。	美保の胸にみな子の「わたしたちの学校でしょう。」という言葉がよみがえった場面
把握すべき状況	・美保の学校には、花壇がたくさん。 ・学級園や広い学校園の色とりどりの花が、学校に来る人の目を楽しませた。 ・花壇の手入れはたいへんで、作業中の争いもよく起こった。 ・花いっぱいの学校はきれいだし、心が和むわ。	・父は大切そうに一冊の古いアルバムを取り出した。 ・父の学校が沈んだのがこの湖だ。	・父たちの学校は、「月明学校」と呼ばれていた。 ・ダムの沈むその日まで校庭を花いっぱいに飾りたくて間近まで花壇の手入れをした。 ・いずれは水の中に沈んでしまう学校だと思っても、そうせずにはいられなかった。	・「でもね、わたしたちの学校でしょう。」 ・みな子さんは、最後にはなみださえうかべていた。
主人公の心の動き	不平　不満 ・かげで不平を言いながらやっていた。 ・だから花だんなんか、やたらと作らないほうがいいのに。 ・ＰＴＡの人たちが草むしりをしてくれればいいのに。	驚き ・それがこの湖だとは信じられなかった。	感動　反省 ・父たちは悲しかっただろう。 ・湖底にしずむその日まで校庭を花いっぱいにかざりたかったなんて。 ・父が歌を歌うのを初めて聞いた。	愛校心　決心　希望　反省 ・そうだ、わたしたちの学校なんだ。
児童の反応	・どうして自分たちがやらないといけないのか。 ・学校をきれいにしたいなら、ＰＴＡの人がやればいいのに。 ・こんなに花壇がないといいのに。 ・花なんかそんなになくていい。 ・面倒くさい。やりたくない。	・目の前のこの湖の底に、父の学校がしずんでいるなんて、信じられない。 ・実際にその湖にきているとは、驚きだ。	・沈むと分かっても、最後の日まで学校をきれいにしようと、花壇の手入れや床磨きをしたなんて、本当に学校を大切に思っていたんだな。 ・自然に囲まれてすてきな学校だったのだろう。 ・わたしは、学校のためになんて思わなかった。	・自分たちの学校だもの、自分たちがやらなければ。 ・自分たちの努力で、花に囲まれたすてきな学校にしよう。 ・父たちと比べて、自分たちは恥ずかしい。
発問	○花壇を手入れすることついて、美保はどんな気持ちで母さんに話しているのでしょう。	○この湖の底に父たちの学校がしずんでいることを知って、美保はどんな気持ちになったでしょう。	○美保は、最後まで学校をきれいにしようとしていた話を聞いてどのように思ったでしょう。	◎「わたしたちの学校なんだ。」という言葉には、美保のどんな気持ちが込められているでしょう。

道徳ノート　月　日（　）

父のアルバム

名前

あなたは、自分たちが学び卒業していく「青山小学校」のために、どんなことをしたいと思いますか。また、どうしてそれをしたいと思うのですか。